

# 平成 26 年度第 5 回文系チャレンジ講座を実施しました

平成 26 年度第 5 回文系チャレンジ講座が、平成 26 年 11 月 19 日、「交通」を「地域」と「経済」のかかわりから考えてみようー経済学と商学（経営学）・現実のつながりについてーをテーマに、本学経済学部准教授の大井尚司先生によって行われました。

遠隔配信受講は、大分雄城台<sup>おぎのだい</sup>・大分鶴崎<sup>あじむ</sup>・安心院<sup>あじむ</sup>・日田<sup>あじむ</sup>・大分商業<sup>あじむ</sup>・高田<sup>あじむ</sup>・国東<sup>くにさき</sup>・別府青山<sup>あじむ</sup>・大分西<sup>あじむ</sup>・三重総合<sup>あじむ</sup>・臼杵<sup>あじむ</sup>の 11 校(210 名)と、来学受講は由布<sup>あじむ</sup>・大分南<sup>あじむ</sup>の高校(35 名)を合わせて 245 名の高校生が受講しました。

大井先生は、始めに「日々の通学、買い物、旅行、モノの輸送など、「交通」は地域と密接につながっています。「交通」が地域や経済にどのように関わっているのかを、低料金の飛行機（LCC）、高速バス、新幹線や観光列車など、九州内の交通から考えみましょう。」と、高速交通機関や中山間地域での交通手段等を「交通」と地域経済とのかかわりを見つめるところから授業は始まりました。

経済学や経営学・商学とはどのような学問かと問いかけました。経済学は「社会の損得のメカニズム」を対象とし、経営学・商学は「個人の損得のメカニズム」が対象であると解説し、「学問はすべてをバランスよくやらなければならない」と話されました。その例として、企業を分析する場合、経営状況、従業員、製品の流通など多面的な視点が必要であることを学びました。

次に、「交通」「物流」（ヒト・モノの流れ）の講義に移りました。通学や通勤では「交通」はなくてはならないものです。しかし、「交通」は自動車、電車、航空機・・・だけではなく、「買い物に行けない・病院に行けない高齢交通弱者」「海外旅行者数・国内旅行者数の変化」「コンビニの商品配達」なども「交通」に関わる問題です。高速道路と一般道路の違いや高速道路の通行料を徴収する理由についても考えました。時間短縮への対価や建設コストや維持費の仕組みなどを説明され、高速道路の無料化の経済効果を物流や観光について考え、社会の中でのプラスとマイナスの視点から考えることの重要性を学びました。その視点で、環境問題・公共交通機関への影響・交通事業経営、道路の維持管理の財源、高速道路や高速鉄道を普及させることのメリットとデメリットについても考えました。生活することは移動することと考えると、「交通」の持つ功罪について私たちはもっと真剣に「交通」と「生活」について学ばなければならないと知らされました。大学での勉強は、1 つのことをじっくり見つけ、探求するところに醍醐味があることに気づいた 1 時間でした。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」（97%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（95%）、「授業内容はわかりやすかった」（92%）、「板書(スライド)は適切だった」（95%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」（93%）と高い評価結果がでました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」（88%）、「映像はよく見えた」（91%）という結果がでました。受講生の声として、「非常に聞きやすく、配付資料とスライドが同じで理解しやすかった」「経済学と経営学の違いなどよく理解できた」「交通と経済の関係が理解できた」「有料であることがわかった」「専門的講義にわくわくし、早く大学生になりたい」など、多くの感想が寄せられました。

